

令和 7 年 第 1 1 回 定例 公安 委員会 会議 録

開 催 日 時 令和 7 年 4 月 1 0 日（木）午前 1 1 時 1 1 分～午後 2 時 4 5 分

開 催 場 所 警察本部

第 1 定例会議

1 開催時間 午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 0 分

2 出席者

公安委員会 勝部委員長 久本委員 笠田委員

警察本部 青山警察本部長 森本警務部長 渡邊首席監察官
 山柝生活安全部長 細田刑事部長 宮田交通部長
 山本警察学校長 永井情報通信部長 若林警備部総括参事官
 生田警務部参事官

（事務局等～柳原公安委員会補佐室長、総務課員）

3 議題事項

4 報告事項

○鳥取県議会 令和 7 年 2 月定例会の結果（警務部）

○自転車乗車中に死傷した交通事故の分析結果（交通部）

（ 1 ）鳥取県議会 令和 7 年 2 月定例会の結果（警務部）

警察本部

鳥取県議会令和 7 年 2 月定例会は、3 3 日間の会期を終え、3 月 2 4 日に閉会した。2 月定例会においては、令和 7 年度鳥取県一般会計予算、令和 6 年度鳥取県一般会計補正予算、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理等に関する条例、鳥取県警察手数料条例の一部を改正する条例についての議案を提出し、いずれも可決された。

警察に対する質問、答弁の状況についてであるが、代表質問は、鳥取県議会自由民主党の福田俊史議員から、「警察人材の確保と能力の向上」について質問があり、警察本部長が答弁した。

一般質問では、鳥取県議会自由民主党の東田義博議員から、「鳥取自動車道のトンネル事故防止対策」について質問があり、警察本部長が答弁した。

地域県土警察常任委員会では、「令和6年における犯罪抑止総合対策の推進状況について」、「令和6年中における人身安全関連事案への対応状況について」の合計2件の報告を行った。

委員

警察人材の確保と能力の向上に関する質問がなされ、警察本部長に答弁していただいた。人的基盤の確保は、県民の安全安心を考える上では重要なことであり、県警察の課題や取組状況等について、県民の方に周知させていただくよい機会となった。今後も引き続き各種施策等を進めていただきたい。

鳥取自動車道のトンネル事故防止対策について、数字に表れているとおり、重大な事故の発生が多い区間である。県民の協力を得ながら交通事故抑止対策を推進していただきたい。

委員

県警察では、人材確保に苦勞しているところ、働きやすい職場の実現に向けた取組の推進、工夫を凝らした参加体験型イベント等の開催など、優秀な人材確保のための取組を行っていることを周知できたかと思う。

鳥取自動車道のトンネル事故については、改めて見ると死亡された方が7人ということで、大きな数字である。県民の方にも憂慮すべき状況だということを認識していただくとともに、引き続き関係機関と連携し、注意喚起をしていただきたい。

委員

警察人材の確保と能力の向上について、人手不足はこの先顕著になっていくことから、働き方改革を含め、この先どの様に警察業務を推進していくか考えていかなければならない。

鳥取自動車道でのトンネル事故防止対策について、各種取組を推進していただいていることがよく分かった。交通死亡事故が1件でも少なくなるように引き続き対策をお願いする。

(2) 自転車乗車中に死傷した交通事故の分析結果（交通部）

警察本部

まず、過去１０年間の学齢別・年代別の死傷者数について説明させていただく。自転車乗車中の交通事故による死傷者数は、過去１０年間の合計が１，１０３人で、そのうち２３人の方が亡くなっている。過去１０年間の全死者数２１１人に占める自転車乗車中の死者の割合は、１０．９パーセントとなっている。自転車乗車中の死傷者を学齢別・年代別で見ると、高校生が２０１人と最も多くなっており、中学生の負傷者数は９３人で、中学・高校生を併せて２９４人と、全死傷者数の２６．７パーセントを占めている。６５歳以上の高齢者については、死者２３人中１４人を占めており、うち７５歳以上は８人と、高齢になるにつれ、死者数が増加しているという分析結果が出ている。

次に、時間帯別死傷者数の状況についてであるが、中学・高校生については、登下校の時間帯に当たる午前８時から午前１０時までの間と、午後４時から午後６時までの間に多発しており、高齢者については、午前１０時から正午までの間に多発している。また、法令違反別死傷者数については、中学・高校生の死傷者２９４人のうち９２人に何らかの法令違反が認められ、特に、指定場所一時不停止の違反割合が高くなっている。高齢者については、死傷者２７３人のうち６９人に何らかの法令違反が認められ、特に安全不確認の違反割合が高いという結果が出ている。

次に、自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率についてであるが、全死傷者数１，１０３人のうち、ヘルメットを着用していたのが１５６人で、着用率については１４．１パーセントとなっている。中学生は６０．２パーセントが着用しており、高校生は９．５パーセント、高齢者は３．７パーセントという結果が出ている。このような分析結果を踏まえ、自転車乗用中の交通事故抑止対策として、「自転車の安全利用に対する意識向上に資する広報啓発活動や交通安全教育の推進」、「自転車利用者に対する指導・取締りの強化」を重点とし、自治体をはじめとする関係機関・団体等と連携した自転車乗車時のヘルメットの着用についての広報啓発活動や、着用率の低い高齢者、高校生等といった各世代に合致した広報啓発活動によって、全ての自転車利用者に対しての交通ルールの周知と遵守をさらに進めるとともに、自転車交通秩序の実現に向けて、自転車の交通違反に対する指導・取締りを強化し、自転車事故のない安全で安心な鳥取県の実現に向けた重点的・計画的な総合対策を推進していく。

委員

自転車乗用中の交通事故について、中学・高校生と高齢者が多いということがよく分かった。しっかりと分析していただいており、大変有り難い。各年代別の対策が必要であるが、自転車は車両であるという認識を持ったうえで法令遵守していただくことに加え、新年度となったことから、子どもたちの安全対策をしっかりと願います。

委員

自転車乗車中のヘルメット着用が義務化となっているが、高齢者を含め、大人

世代の着用率が低いことが顕著に数字に現れている。大人が範を示すことが重要であり、車に乗る際はシートベルトを着用するように、自転車に乗車する際はヘルメットを被ることを地道に定着させていく必要がある。また、自転車は免許証がいない乗り物であるが、厳罰化となっていることから、法令違反を認めた際は厳しく指導していただきたい。子どもの場合は、処罰の対象とならないものの、事故を防ぐために安全教育等を引き続き進めていただきたい。

委員

新学期になり、警察官や交通安全協会の方をはじめ、多くの方に交通安全対策を推進していただいております。大変有り難く思っています。改めて、子どもたちに対する自転車教室の必要性を感じたので、各種対策を含め、引き続きお願いしたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取3件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞2件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 事前説明

4 報告事項

監察報告

5 決裁

- ・公安委員会宛て苦情に対する回答について
- ・公安委員会宛て苦情の受理について
- ・犯罪被害者等早期援助団体からの令和7年度事業計画等の提出

6 公安委員会委員間の事前検討・協議等

7 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。